

決勝トーナメント

1, 2回戦

3回戦

準決勝、決勝

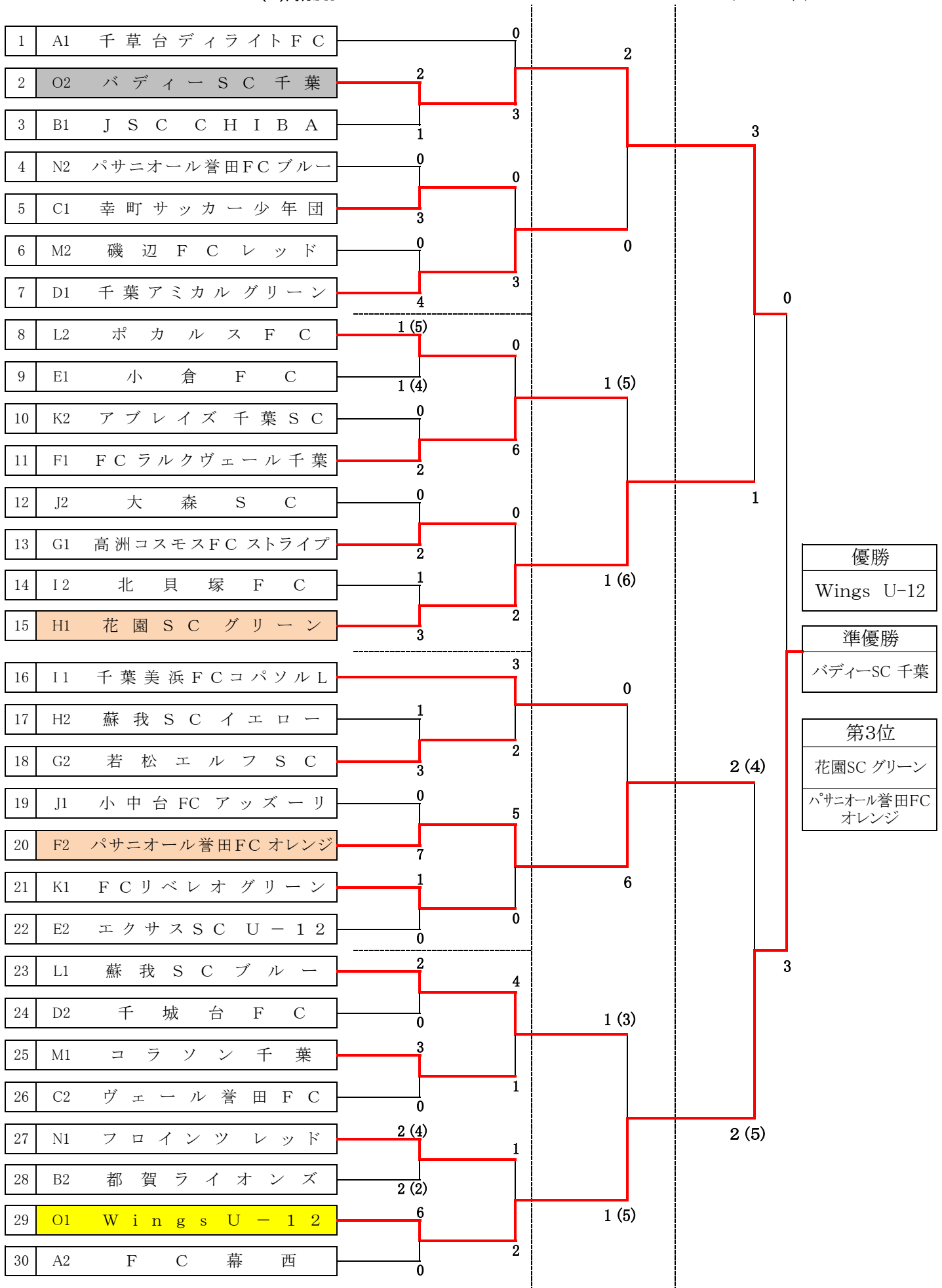
9月28日(日)

10月11日(土)

11月15日(土)

水の里公園

()内はPK



優勝

Wings U-12

準優勝

バディーSC 千葉

第3位

花園SC グリーン

パサニオール菅田FC
オレンジ

【準決勝第二試合】

バディースッカークラブ千葉 3 vs 1 花園サッカークラブグリーン

準決勝第一試合の熱気が冷めやらない中、ほぼ予定通り 14:05 に準決勝第二試合がバディースッカーのキックオフではじまる。

キックオフ後、中盤での攻防～互いの選手の意気込みと球際の強さが見られる。ボールタッチが少しでも大きくなるとボールを失い、攻守が入れ替わる展開。ただ、2分ほど経過したあたりから時おり縦のボールが出始める。

開始3分、バディースッカーが縦の浮き球を花園ゴール前に供給すると、花園ディフェンスとゴールキーパーが重なり、クリアしきれずオウンゴールとなる。

花園の選手は崩された形での失点ではないことを皆で確認するように試合を再スタート。

その確認が功を奏したかのように、選手の気持ちがキックオフの時の状態に戻ったかのように中盤での攻防がアグレッシブとなる。

8分、バディースッカーが中央の攻防を避けるように右サイドから花園ゴールに迫り、ゴール前へ低い速いパス、それをゴール前に戻った花園 DF22 番清水さんがコントロールしてセンターライン近くにいた FW14 番実川君に縦の速いパス、背後にバディースッカーDF もしっかりとアプローチしていたが、見事にファーストタッチでバディースッカーDF の背後に抜け出してドリブル、バディースッカーGK との1対1も冷静にプレーしてゴールに流し込み、同点ゴール。

早い時間帯に同点とし気持ちが盛り上がる花園、それに対してバディースッカーはどのように対応するか？と見てみると、10分経過したあたりから本来のプレースタイルなのか、バディースッカーのタッチ数の少ないショートパスが小気味よくつながりはじめ、花園陣内でのプレーが増え始める。

15分、センターラインあたりでボールを保持したバディースッカーDF からショートパス数本で花園ゴール前までつながったが、シュートまでには至らず。

18分、バディースッカーのパス交換でマークがずれた 10 番橋本君がミドルシュート、花園 GK がはね返す。

19分、バディースッカーMF からの縦パスに 13 番木村君が花園 DF の裏へ抜け出すがシュートは惜しくも枠の外。

同じく 19分、10 番橋本君のミドルシュート、花園 GK がはね返したボールをバディースッカーFW がゴールに押し込んだが、オフサイド。10分以降はバディースッカーペースでの状況が続く中、前半終了。

後半スタート直後は、中盤の攻防が続くが、3分バディースッカーがコーナーキックを得たあたりから徐々に花園陣内の攻防が多くなる。

5分、花園の縦のボールをバディースッカーDF がインターセプト、左サイドから花園ゴール近くに素早く運び、ゴール前にパス、花園 GK・DF がクリア出来なかったボールをバディースッカー10 番橋本君がペナルティーエリア内でシュート、ゴールネットをゆらしバディースッカーが勝ち越す。

7分、バディースッカー20 番高橋君が左サイドをドリブルして花園ゴールへ、ゴール前に走り込んだ 10 番橋本君に合わせて3点目。

その後もバディースッカーは、プレッシャーをかわすようにタッチ数の少ないパスをつなぐ、あるいはサイドのスペースを有効に使ったプレーにより花園ゴールにせまり、シュートを重ねている中で試合終了のホイッスルが鳴った。

以上、準決勝の二試合が終了し、Wings とバディースッカーの二チームが優勝の栄冠をかけて決勝戦を行うことが決定した。

若葉区サッカー協会第四種委員会 技術部 上福元 清隆

【準決勝第一試合】

WingsU-12 2 vs 2 パサニオール菅田 FC オレンジ
5 PK 4

千葉県サッカー協会第4種委員会のご尽力により本年9月にオープンした都川水の里公園・少年少女サッカー場を舞台に千葉県少年サッカー大会4年生の部の準決勝・決勝が開催された。

天候は快晴、風もほとんど無く感動を与えるプレーを目の当たりに出来る期待がこみ上げる中、13:00に準決勝第一試合がパサニオールのキックオフではじまる。

序盤、パサニオールはリスクを避けるゲームプランなのか長めの縦のボールを多用し、前線の選手へ、Wings ディフェンスラインの背後のスペースを突く。

それに対してWings ディフェンスラインは12番鈴木君を中心にリスクマネジメントしたポジショニングで対応、時にはアグレッシブにインターセプトして攻撃に転じる。しかし、パサニオールも中盤選手の素早い寄せでボールを奪取するなど、攻守が激しく入れ替わる展開。

そんな中、激しい中盤の攻防においてWings 3番下山君がボールを奪取、パサニオールの選手のプレッシャーをかいくぐりながらボールをキープし右サイドに展開、再度ゴール前でボールを受けて右足一閃、Wings のファーストシュートがゴールに繋がる。

その後も双方のチームともにプレースタイルを変えず選手のストロングポイントを活かした形でゲームは進むが、一本のコーナーキックからパサニオールの流れになる。

キッカーは7番内村君、キックはコース・軌道・スピード共にベスト～10番相内君にピンポイントでボールが入るが、Wings ディフェンスも何とか身体を寄せて対応、その分ゴールに繋がらなかった。その勢いから立て続けに3本のコーナーを得たパサニオール、キッカーは7番内村君、全てのキックがゴール！と思わせたが、Wings もゴール前にブロックを作って必死にクリア。

その後も中盤の攻防が続くが、終盤にWings のタッチ数の少ないパスが繋がり始める。縦、横、縦・・・ゴールに向かう入口を探し、そして作りながらボールを運びゴール前にスルーパス～Wings FW とパサニオール DF・GK の三人が交錯してボールがゴールに吸い込まれWings の二点目が生まれ前半終了。はっきりしたシュートでは無かったがWings の意図しているプレーから生まれたゴールのような気がした。

後半スタート、前半と同様なプランだと思う中、パサニオールが中盤で奪ったボールを早い展開でゴールに向かってキック、浮き球となったボールをWings ディフェンスがヘディングでクリアしようとしたが、パサニオールの勢いがボールに乗ったかのようにヘディングしたボールはGKの頭上を越えてゴールに吸い込まれた。後半キックオフ間もない2分のゴールにパサニオール選手のモチベーションが上がったように思えた。

現実、その勢いは、Wings ゴールに向かう推進力となり、5分コーナーキックを得てゴールをおびやかす。7分左サイドを縦にドリブルするパサニオールの選手をWings 選手がたまたまファールしてしまう、左45度・距離は約25m、キッカーは7番内村君、選択肢は幾つかあるが迷わず右足を一閃、低い弾道でゴール右のネットを揺らす同点ゴール！会場はどよめきと歓喜の渦が巻いた。

その状況にWings 選手は意気消沈するかと思っただが、その状況を跳ね返すようなアグレッシブさが出て、それまで以上に激しい攻防が見られた。ただ、Wings も縦を急ぐ展開となり少し打ち合いの様相とも思われた。終盤、双方のチームにビッグチャンス到来、19分Wings がパサニオールゴールにせまりシュートがポストをたたく。アディショナルタイムにパサニオールのコーナーキック、キッカー7番内村君、キックしたボールはゴール前へ、そのボールをWings 12番鈴木君がヘディングで跳ね返して、前後半が終了した。

その後のPK戦は5-4でWings に軍配は上がったが、双方チーム共に持ち味を発揮した感動を呼ぶ戦いであった。

第27回 千葉県少年サッカー大会（4年生以下の部 11人制）

【決勝戦】

15時30分 キックオフ 会場 都川水の里公園少年・少女サッカー場 主審 土井氏

Wings U-12 3 vs 0 バディーサッカークラブ千葉

決勝戦は準決勝パサニオール菅田オレンジ戦でPK戦まで纏れた接戦に勝利したWings U-12（以下Wings）と花園SCグリーンを持ち前のパスワークで押し切って勝ったバディーサッカークラブ千葉（以下バディー）の顔合わせになりました。

バディーのキックオフで試合が始まりました。

立ち上がりからWingsが勢い良く飛び出し早いプレスからペースを掴み前半2分Wings②番新澤大知君がインターセプトから一瞬抜け出して右サイドからループシュート惜しくも外れましたが、このシュートが呼び水となってWingsの②番新澤君⑦番田村大樹君⑩番鈴木浩海君④番井端一翔を中心に早いプレスからインターセプトそして押し上げてと言う形で何度もバディーゴールに迫る展開が10分程続きました。対するバディーは早いプレスに中々対応出来ませんでした。11分にハーフライン付近からのFK獲得したがチャンスメイクまでには至りませんでした。そして13分Wingsに待望の先制点が生まれます、味方FKを④番井端一翔君が受けて⑩番鈴木浩海君にループパス受けた鈴木君が相手DFをスクリーンしながらループシュートを放ち相手GKの頭上を越えてゴールイン見事な先制点でした。その後もWingsが攻めてバディーが耐える展開が続きました。バディーは15分に10番橋本大和君のドリブル突破からシュートはあったものの相手ゴールを脅かすまでには至りませんでした。その後もWingsペースで試合が進み前半が終了しました、前半はWingsの早いプレスからの猛攻にバディーが耐える展開でした、猛攻を受けたバディーですが粘り強い守りで最少失点にとどめ後半に望みを繋ぐ事が出来ました。

後半が始まり前半同様Wingsペースで試合が進みました、0分④番井端一翔君がインターセプトから⑦番田村大樹君にパスそしてループシュート3分4分7分とシュート場面があり、対するバディーは1分FKからゴール前で混戦になり⑩番橋本大和君がシュート惜しくもクロスバーの上に外れる6分⑭番小宮孝介君が右サイドをドリブルで駆け上がりシュート相手GKがキャッチ、反撃を試みるバディーですが押し込まれて蹴りだしてから反撃ですので2本シュートを放ったものの単発でした、しかし後半7分を過ぎたあたりからWingsのプレスが甘くなりはじめ、バディー本来のパスサッカーが顔を出して来

ました、11分良いリズムでパスを繋ぎ⑬木村颯真君のミドルシュート、12分⑩番橋本大和君のドリブル突破から⑦番齊郷基貴君にパスそしてシュート左に外れるも良い形が出来てバディールに行きかけた流れでしたが、これを引き戻すビックプレーが生まれました、同12分Wings⑫番鈴木浩海君が味方のクリアボールをキープして思い切りの良いミドルシュートを放ちました、このボールが相手DFに当たりトップスピンの掛かったボールは相手GKの前でバウンドして頭上を越えてゴールイン鈴木君の思い切りの良さが生んだ追加点でした、この得点が再び早いプレスからの攻撃を生き返らせました、17分Wings③番下山祐樹君のインターセプトからドリブル突破中央にセンターリング⑩大堀歩夢君が受けて②番新澤大知君に落としミドルシュート決定的な3点目が入りました。その後バディールも反撃をしますが16分CK19分FK何れも得点には至りませんでした。Wingsが押し切り勝利しました。

まとめ

Wingsの早いプレスと攻守の切り替えの速さがバディールを上回っており、終始Wingsのペースで試合が進みました、前半はほとんどバディール陣内でゲームが行われました。しかしバディールの粘り強い守備がゲームを壊さず最少失点にとどめた。

Wingsは前半一方的に攻めながら1点しか取れなかったわけですがシュート数から考えるともっと取れても不思議ではなかった、この辺がサッカーの難しさなのかも知れません。Wings⑫番鈴木浩海君は準決勝のバサニオール誉田戦ではDFでしたが決勝戦はFW出場、結果として2得点に絡む活躍を見せました、ベンチの采配としても上手くいった例だと思います。

今大会はWingsの優勝で終わりましたが決勝で戦った両チーム共にサッカーの質は違いますがチームとして目指す所が出来ていますし、個のレベルも高かったです。

この2チームが引っ張る形で千葉市のレベルを上げてほしい、そして戦評に名前が挙がった何名かは間違いなく、これからの千葉市のサッカーを支えてくれる逸材です。

今後の努力に期待したい。